

とか、将門は大蛇が美女に化けてその国の若殿と恋し合つて大蛇から生れたが、生れると全身を母の大蛇がなめたので皮膚は鉄の如く、弓矢も通さず剣でも切れないので、どこの戦でも敗けた事がない。だが、こめかみの一ヶ所だけ母がなめ残したので秀郷はこの、こめかみに矢を射込んで倒したのだそうだからか滅法強い大将だったとかだけで、この地方に君臨した政者らしい話は何一つ残っていないけれども、神仏を崇拜し一粒の米も農民の汗の結晶である事を知つて、自らを律し温かい思いやりと、大らかな撫育は領内民衆より敬慕された大將軍ではなかつたらうか。そんな連想も湧いて来ている今日この頃である。